

川崎市市制100周年記念事業
実行委員会主催事業（提案型事業）採択事業

子どもの力で川崎の未来をかえるプロジェクト —世界こども地域合衆国サミット—

次世代と地域で、次の100年に繋ぐ
こども地域合衆国ファンドサポーター
協賛企業・団体説明会資料


田園調布学園大学



一般社団法人 CePiC
みんなの地球公園国際コミュニティー



本事業の目的

協賛企業・団体が、サポーターとして、大学生スタッフ、大学教員、各種行政機関と連携し、社員・職員も一緒に、子どもたちに、仕事体験・まちづくり体験を提供します。

この活動を通じ、子どもたちは、さまざまな成功体験から、「自己肯定感」・「自己有用感」・「主体性」・「創造性」・「社会性」を身につけ、同時に、応援しているサポーター企業・団体の商品・取組等への認知や愛着が醸成されます。

川崎市市制100周年記念の本事業を、次の100年継続・発展させるため、「こども地域合衆国ファンド」を設立します。皆様からのファンドへのご協力をお願いいたします。

※本事業の参加者として、子ども・保護者2500人、メタバースへの参加者5000人（海外・国内から年間10,000人を目標）、学生 教職員スタッフ150人を予定しています。

※本事業に広報媒体として、CePiCメタバース・HP、大学・イベントHPへの掲載とAI・SNSを活用した発信を行います。

※次世代の子ども・学生・若者のイニシアティブで次の100年継続・発展を目指し、設立する「こども地域合衆国ファンド」、「こども未来発信AI」を活用した「こども地域→地球メタバース」とHP・SNSは、大学とCePiC、サポーターの皆様が協働していきます。






一般社団法人 CePiC
みんなの地球公園国際コミュニティー

サポーター企業・団体メリット

- ・ **子ども・家庭を通じた認知度・愛着向上**
仕事体験（政府の推進する金融経済・公共教育）を通じた、企業・地域の認知度・愛着の向上
- ・ **デジタル時代のCSV活動としてのPR**
地域・社会貢献活動としてHPなど広報媒体への掲載各取組や活動内容を大学HPやCePiC「こども地域→地球メタバース」とそのHP・SNSでも紹介します
- ・ **国内外へのメタ・リアルの広報活動**
万博等に向けたメタバース空間、会場でのPR・資料配布、印刷物・HP・SNSなどへの企業団体名の掲載
- ・ **子ども・学生・大学教員やAIとの連携**
各企業・団体ごとに担当の学生スタッフがつきますさらにCePiC「こども未来発信AI」等活用しながら自社の仕事内容をわかりやすく子どもに伝えるにはどうすれば良いか、学生スタッフと共に考えます
- ・ **製品・サービス等への次世代・子どもの意見・関心を収集・反映する事ができる**
子ども会議や川崎市全域でのメタバース・リアルの謎解きイベント、こどものまちとサミットを通じ、自社の製品・サービスを子どもたちにとって、より魅力的にするために、子どもたちのアイデアを集め、新商品や新サービスを共創する事ができます。

本事業の内容

次の100年を担う子どもたちと大人で、下記の3つの事業とリアルxメタバース事業に取り組みます。

100周年記念事業の基本方針	基本方針に対応する本事業の内容
市民一人ひとりのシビックプライドを醸成する	<p>A:ミニたまゆり（こどものまち）</p> <ul style="list-style-type: none">・ 11月16日、17日 10-16時 開催・ 川崎市にゆかりがある企業・団体と仕事体験と名産品共創ができるイベント・ 働いてもらった給与の一部を税金として納め、町の運営を行う・ SDGsに向け世界一エコな「こどものまち」とまちづくりを運営を目指す・ 子どもたちは、協力企業の仕事を経験することにより、川崎市の歴史・文化・自然・地元企業・産業・公共の特長について理解し郷土愛が醸成・発信される 
新たな100年に向けて、文化として根付くムーブメントを起こす	<p>B:共創子ども会議</p> <ul style="list-style-type: none">・ 2024年6月から11月まで定期的で開催（全6回 対象は市内の小中学生）・ 協賛企業・団体と連携し、子どもたちと新たなビジネスプラン・商品・まちづくりのアイデアといった新しい価値を共創する・ こどものまちと連動した【メタバースxリアル】を開催。川崎市の7区の公園周辺の商店街・文化財等や工場等とメタバース空間を舞台に全域を統合 
川崎市ブランドイメージへの共感を喚起する	<p>C:世界こども地域合衆国サミット</p> <ul style="list-style-type: none">・ 2024年11月17日（日） 12-14時 開催・ ドイツ、ウクライナ、全国の子どもの代表を集めた国際会議を開催・ 日本で初めて子どもの権利に関する条例が施行された川崎市の子どもの権利の発揮に関する取り組みを紹介し、川崎市が子どもの権利に関する先進地域であることを内外にPR 

検討中の内容

100周年記念事業の基本方針	基本方針に対応する本事業の内容
市民一人ひとりのシビックプライドを醸成する	<p>D:【メタバース×リアル】 謎解きツアー</p> <p>3事業・川崎7区【リアルとメタバースで新たに生まれる新たな体験】</p> <p>次の100年に子どもと繋ぐ“地域の歴史・文化-自然-産業-公共価値”</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 謎解きツアー：2024年7月27日（土）～8月4日（日）（メタバース：7月～12月で3事業と連携）
川崎市ブランドイメージへの共感を喚起する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民一人ひとりのシビックプライドを醸成する ミニたまゆり（こどものまち） 11月16日、17日 川崎市ブランドイメージへの共感を喚起する 世界子ども地域合衆国サミット 11月17日 新たな100年に向けて、文化として根付くムーブメントを起こす 共創子ども会議 6月～11月 → 子ども会議や川崎市全域でのメタバース・リアルの謎解きイベント、こどものまちとサミットを通じ、自社の製品・サービス等を次世代・子どもたちにとってより魅力的にし、地域の持続的発展に貢献するために、子どもたちの意見・関心やアイデアを集め、新商品や新サービスを共創する事ができます。
新たな100年に向けて、文化として根付くムーブメントを起こす	<ul style="list-style-type: none"> ・ リアルの公園・商店街・文化財等とメタバースの融合という先駆的なアプローチを採り、現実空間とデジタル空間を組み合わせた体験で、特に全国・世界の若年層を中心とした高い支持が期待できます。また、今回の企画の新規性・先進性は、まず次世代の子どもたちが子ども会議に基づくこどものまちで住みたいまちを描き、そこに市民・内外観光客等がリアルやメタバースで参画する類を見ない仕組みにあります。 ・ 川崎市の約150万人の住民及び関係人口の方々（国籍を問わず広く在日外国人・留学生等）と海外・国内から年間10,000人を目標とする観光客の方々（交流人口）を対象とし、内外デジタルネイティブが親しむトレンドを巧みに取り入れ、地域の魅力を最大限引き出す仕掛けを次の100年に向け構築していきます。さらに、地域企業・団体等との緊密な協力関係の構築し、商店街や地域の企業・団体サポーターは、SNS等を通じて全国や海外への数十倍の広告効果を得ると共に、地域経済の活性化が期待できます。 ・ メタバース空間の構築やデータ分析により、地域資源を資産・資本としてデジタル時代に価値を産み続けるDAOやデータ基盤を構築、全国・世界から人流・商流・金流を集めます。



A:ミニたまゆり（こどものまち）

子どもたちの仕事体験・まちづくり体験

「こどものまち」とは、1979年にドイツのミュンヘン市で始まった、子どもが労働・納税・消費を行いながらまちづくりを行う活動です。ミニたまゆり※では、子どもが、川崎市にゆかりがある企業・団体の仕事が体験できるイベントを開催。川崎市にある、様々な企業・団体の仕事を知ることにより、自分が住んでいるまちについての理解と愛着を育み、子どもたちへの「川崎市ブランドイメージへの共感を喚起する」事を目指します。「こどものまち」には、納税制度、市議会、裁判など、実社会と同じようなまちを維持するための仕組みが用意されており子どもたちが考えたルールでまちの運営が行われます。

ミニたまゆり(こどものまち)での、子どもへの関わり方

大人口出し禁止！ 子どもが全てを決められるサポートをする

保護者の過度な干渉は、子ども警察に捕まります

答えを教えない！ 子どもが考えるサポートをする

子どもに、仕事内容を手取り足取り教えるのが、目的ではありません
子どもたちが主体的にまちの運営ができるようサポートを行います

失敗しても、大丈夫！ 子どもと共に熱中・失敗・成長をする

子どもの意見を最大限に尊重する。
失敗しそうであっても、チャレンジすることが重要
ミニたまゆりは、子どもたちの考えで作られる自由な町です



※田園調布学園大学では2005年より、ミニたまゆりと呼ばれる「こどものまち」を開催している。大学近隣の、たまプラーザ駅・新百合ヶ丘駅から命名された

過去の出展企業・団体の実績

出展企業・団体名	内容
全日本空輸株式会社 (ANA)	航空会社の仕事
シャープ株式会社	ロボフォンの提供
株式会社シグマ	フォトスタジオ
株式会社ジュピターテレコム	テレビ局
株式会社 よみうりランド	ガチャポン屋
NPO法人 ソシオキュアアンドケアポート	ネイルサロン
かわさきエフエム	子ども市長のラジオ出演
タウンニュース	取材協力
とうふ菜園玉川学園店	スイーツ店
ヨネッティー王禅寺	プール券の提供
一般財団法人 川崎新都心まちづくり財団	プレミニたまゆりの開催支援
橋りサイクルコミュニティセンター	紙すき
自衛隊 神奈川地方協力本部	自衛隊体験
社会福祉法人 はぐるまの会	コーヒー・焼き芋
社会福祉法人 一廣会 金井原苑	人助けの仕事
社会福祉法人こども国協会	風車作成
新百合ヶ丘総合病院	病院の仕事
神奈川新聞	取材協力
川崎フロンターレ	ふろん太（着ぐるみ）提供
川崎市教育委員会	広報協力
川崎市動物愛護センター	動物愛護センター
屋川 捷太郎 氏(かわさきマイスター)	食品サンプル
田中 司好 氏(かわさきマイスター)	手作りおもちゃ
日経クリエイト	食材調達・調理
麻生警察署	警察署
麻生消防署・麻生消防団	消防署
麻生養護学校	物品販売
麻生郵便局	郵便局
ゆうちょ銀行登戸支店	銀行
川崎西税務署	税務署

B:共創子ども会議①

持続可能なエコなまちづくりとGX活動コンテスト・出店

2024年6月から、月1回のペースで市内の子どもたちを対象とした会議を実施。次の項目について、活動・話し合いを行う。

- ・子どもによる選挙を実施し、子ども市長を選出
- ・「こどものまち」の法律・ルール・税率・税金の使い方などを策定
- ・「こどものまち」に出展する店舗（仕事）についての議論・決定

「ミニたまゆり」では、40を超える企業・団体と連携し、その出展内容について学生スタッフが企業・団体の担当者と協議し出展内容を決定していた。今回の活動では、子ども会議の参加児童も加わり、**子ども—大学生—企業・団体**の3者が連携して子どもへの仕事体験の内容を共創する仕組みを実現する。

本事業では、**川崎市全域を対象**として、市内に本社や工場・営業所を構える企業や、かわさきマイスターに認定されている職人の方など約20業種の出店を募集しています。

共創子ども会議では、**新たな100年に向けて、文化として根付くムーブメントを起す活動**として、まず、

- ・**持続可能なエコなまちづくりを行うためのGXプランを創出**
- 企業・団体サポーターと子どもと学生・教員・有識者等が連携して実施**します。



一般社団法人 CePIC
みんなの地球公園国際コミュニティー

子ども市長選挙

「こどものまち」では、毎年、子ども市長選挙が開催されます。子ども市長に立候補する子どもは、自分が実現したい公約を考え、有権者の前で演説を行います。



投票結果によって選出された子ども市長・子ども副市長は、様々な業務に就いてもらいます。イベント本番は、大人の来賓（市長・国会議員など）への対応、子ども市議会・模擬裁判への出席など多くの業務を担当します。イベント準備では、ラジオやテレビへの出演、子ども会議の司会進行、公約の実現のためのプランづくりなど、その業務は多岐にわたります。

子どもに関する基本方針

子どもが楽しめる事を第一優先とする

楽しい=楽することではない
大変だけど、頑張りたい思える活動にする

子どもが主体的に動ける様にする

子どもの意見を否定しない
大人の意見を押し付けない
子どもと同じ目線で話す

子どもが有用感（人の役に立っているという思い）を実感する

子どもたちが感謝される喜びを得て、自分で自分のことを認められる様にする

B:共創子ども会議②

SDGs・デジタル時代の名産品共創とビジネスコンテスト・出店

共創子ども会議では、**新たな100年に向けて、文化として根付くムーブメントを起こす活動として、次の事項を企業・団体サポーターと子どもと学生・教員・有識者等が連携して実施する。**

- ・子どもたちのアイデアをもとに、新しい商品・サービスを共創
- ・「こどものまち」で実現する、新たなビジネスプランを創出

各活動は、リアル会場だけではなく「こども地域⇒地球メタバース」でも開催することにより、遠方の子どもが参加できるようにする。パソコンを利用してメタバースにアクセスすると、バーチャル空間が表示され、学生・教員・有識者や企業・団体サポーターの皆様と共に、参加者同士の音声による交流や「こども未来発信AI」も活用したプレゼンテーション発表等が行える。

こども地域合衆国ファンド

ドイツでは、多くの事例がある活動で、子どもたちの『自分たちのまちを良くしたい』という想いを実現するために、「こどもまちづくり基金」を積み立て、その基金を原資として子どもたちの自発的な活動を支援する制度。子どもたちの提案を助成対象とするだけでなく、審査する側にも子どもたちが参加します。本事業でも、子ども発案のアイデア・事業を支援する仕組みとして、こどもまちづくりファンドの考え方を取り入れています。



こども地域⇒地球メタバース

川崎市全域から共創子ども会議やサミットに参加する仕組みとして「こどものまちメタバース」を作成します。メタバース内では、川崎市の7区にまつわる、謎解きゲームが展開され、子どもたちは、クイズに答えながら、川崎市の特色や産業について学ぶ事ができます。2022年には、メタバースの子どもへの取り組みとして、こどものまちVRサミットを開催。メタバース上にこどものまちの代表が集まり会議を行いました。



B:共創子ども会議③

共創子ども会議の日程と内容

6月29日（土）	仲間づくりゲーム、ミニたまゆりの説明、市長の仕事について協賛企業・団体の紹介、担当グループの決定
7月20日（土）	子ども市長選挙 協賛企業・団体担当者と子ども担当者の顔合わせ 商品開発についてのアイデア出しワークショップ
8月3日（土）	ミニたまゆりをSDGsに貢献する町にするには？ 協賛企業・団体と一緒に新しい商品、サービスのアイデアを考えよう ①
8月22日（木）	町を良くする方法、AIを使った新しい仕事について考えよう！ 協賛企業・団体と一緒に新しい商品、サービスのアイデアを考えよう ②
9月21日（土）	仕事内容の決定、仕事のマニュアル作成 ワークショップ：素敵な定員になる方法を考えよう！
10月12日（土）	ミニたまゆりのリハーサル 子ども店長の仕事を練習しよう！

ANA 航空会社の仕事体験

全日空の協賛による航空会社の仕事体験では、全国からパイロット、CA、整備士、誘導員など総勢40人のスタッフが参加。飛行機の操縦体験や整備士の仕事、CAによる客席への飲み物を提供など、航空会社のさまざまな仕事が体験できるブースを用意した。その後、ANAはキッザニアのオフィシャルスポンサーになる。



オリジナルパン・和菓子の開発

地域のパン屋・和菓子屋と連携して、子どもたちのアイデアで、オリジナルの菓子パン・和菓子を作成。親子で参加するイベントのイメージからできた、親子鳥パンや多摩区のマークとフロン太をイメージした和菓子が開発され、ミニたまゆり当日に販売された。



B:共創子ども会議 子どもたちのアイデア実現の実例

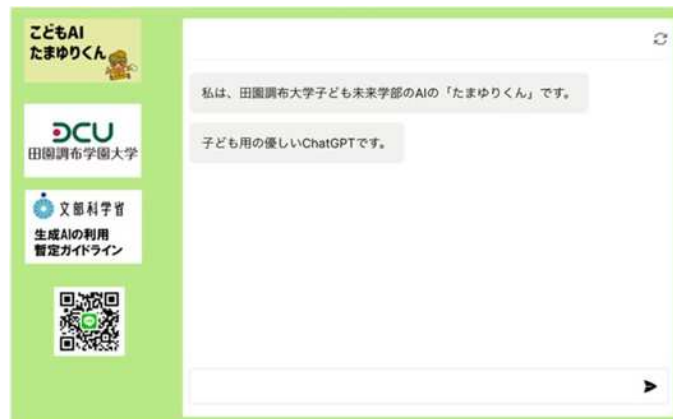
鋼管通商業会ブツブツ交換所

客足が減り、シャッター店舗が増えた川崎市の商店街。その商店街に、「お金をかけずにお客さんを呼んで、活気を取り戻したい!」という問題を、子どもたちが解決しました。自宅で使わなくなったおもちゃ、ベビー服、本、ゲーム、ぬいぐるみなどを持ち込むと、ポイントが与えられ、そのポイントを使って別の品を手に入れたり、縁日などのイベントを楽しむことができます。



AI大人相談室

文部科学省のガイドラインに合わせて、子どもでも安全に利用できる、**子ども専用生成AI**「たまゆりくん」を開発。「文部科学省のガイドラインの禁止事項を依頼すると拒否する設定」、「性的な表現や暴力表現を抑制」、「子どもの個人情報を守るため、ログインせずに使える」などのカスタマイズを実施。この、子ども専用AIを活用して、「**大人が抱える問題**」をこどもの目線で捉え、解決にむけたアドバイスをを行うサービスを「こどものまち」の新しい仕事として運営。



学生・子どもたちと作り上げた人助けの仕事

福祉の仕事を、どのように子どもたちに伝えるべきか?と悩んだ協賛団体(福祉施設)が福祉を学ぶ学生スタッフや子どもたちから意見を収集。「子どもの頃、人助けをして、親から褒められたのが嬉しかった」という意見から仕事の名前を「人助けの仕事」とし、会場内で困っている人(目が見えない人、車椅子の人など)を見つけ、困りごとを解決すると、賞品がもらえたり、表彰されるゲーム形式の店舗とした。この工夫のおかげで、大人気のブースとなり、子どもたちに人助けをする事の喜びを伝える事ができるようになった。



C:世界こども地域合衆国サミット

子どもと大人のまち代表による国際会議

ドイツ・ミニミュンヘンやウクライナの子どもの代表、全国の「こどものまち」の代表を招き「第2回世界こども地域合衆国サミット」を開催

日本初の「子どもの権利に関する条例」が施行され、子どもの権利に関する先進地域である川崎市がホスト国（地域）となり、川崎市の取り組みを紹介し「こどもまんなか社会」において、権利は具体的に行使できて初めて公共創造に寄与する中、川崎市が子どもの権利が行行使でき実現する先進地域であることを内外にPRします。

全国・世界の子どもの代表から、子どもの権利に関する意見の集約、子どもたちの本音を集約して、次のようなテーマで国際会議を行います。

- ・ 21世紀を生き抜く子ども・若者たちがリードできるために、社会はどうあるべきか？
- ・ 企業・地域の価値を高める持続可能なまちづくりをするために、どうすればよいか？
- ・ これらを実現するために、今、子どもたちと大人たちが何をどう共創・始動するか？

サミットでは、大人の代表（議員や企業の代表）を招待。子どもの代表から大人の代表に、自分たちの意見を集約した提言書を提出するだけでなく、こどものまちだけでなく実際の大人のまちを100年後を担う次世代として共創していく「未来共創声明」を発表。第2回以降、その実践を子どもと大人でフィロアアップし実現化していきます。

第1回 世界こども地域合衆国サミット

2023年10月大田区羽田にて、第1回 世界こども地域合衆国サミットを開催。全国の「こどものまち」やウクライナの子どもが大人の代表を招き、首脳会議を行いました。

子どもたちが自分たちが取り組んできた活動や大人への提言し、大人たちと話し合い、下記の「未来共創声明」を作成しゲストの川崎市副市長・大田区区长と発表しました。

- 1 「こどものまち」を通じて、こどもの権利を第一に考える
- 2 「こどものまち」が持続可能な社会を作る
- 3 「こどものまち」が世界のこどもたちを繋ぐ橋になる
- 4 「こどものまち」が新しい産業を生み出す
- 5 「こどものまち」を全国に普及させる



この発表に対し川崎市伊藤副市長は次のコメントを述べました。

子どもが、一人の人間として社会の一員として尊重されなければならない。こういった五つの声明を実現するためには、子どもの権利の尊重なくして実現はありえないと思いました。
川崎市では、全国に先駆けて子どもの権利条例を制定いたしました。そして、今年度から、こども基本法が施行され推進役として、こども家庭庁ができました。しかし、条例を作ったから、あるいは法律を作ったから全てが、解決するわけでもなく、それらを皆さんに知っていただいて、その課題をどう解決すれば良いか。大人だけが考えるのではなく、「こどものまち」のような活動で、子ども自身が取り組んでいくことは、本当に大事だと思いました。こうした取り組みを、単発で終わらせるのではなく継続して取り組んでいくことの大切さを知りました。

(検討中) 【メタバース×リアル】 謎解きツアー

3事業・7区【リアルとメタバースで新たに生まれる新たな体験】 次の100年に子どもと繋ぐ“地域の歴史・文化-自然-産業-公共価値”

川崎市の7区の地域の公園と周辺地域（歴史・文化財-公園・自然-産業・商店街-公共施設等）を舞台に、メタバース空間と現実世界が融合した謎解きラリーを開催。

- ・7つのメタバースにそれぞれ10個ずつ70個のナゾナゾをQRコード・ARで見られるよう設置
- ・正解問・数に応じ、ポイント、協賛企業の景品や割引クーポンをゲット
- ・1つの公園周辺でナゾナゾを解き、メタバース上で他の6地域のナゾナゾも解ける
- ・メタバース空間で川崎市の「価値」を発掘・体感！

期間：7/27～8/4 目標参加者数：10,000人

会場：周辺地域（商店街・文化財等）のある7区の公園：ゆめパーク、生田公園、大師公園、富士見公園、夢見ヶ崎公園、黒川野外活動センター、川崎市青少年の家 など

全国・世界に広がる、謎解きゲームの効果と事例

クイズや暗号、パズルを解き明かし、目的の達成を目指すイベント。全国で数多くのイベントが開催され、多くの子どもたちが集める話題の活動となっている。町おこしの効果もあり、開催地域の特色や歴史、名産などについての出題を通じて、地元愛を育む効果がある。

メタバースの有用性

一般的な、なぞときゲームは、リアル空間で開催されます。

地元の事を知ってもらえる効果があるが、遠方からの参加者を集めにくいというデメリットがあります。本事業では、リアルな公園を入り口として、メタバース空間でイベントを実施することにより、遠方からの参加者を集める事ができます。

また、川崎7区ごとのメタバース空間を用意し、各会場の活動（地元愛）を数値として可視化。各区の活動を競うメタバース独自のゲーム感覚の活動や、参加者から協賛企業・団体のイメージアップを図るアイデアを募集するといった、参加者と協賛企業・団体が双方向で交流する事ができる新たな取り組みが可能となります。

メタバースの活用事例

3D博物館

子どもたちが、メタバースやVRの技術を利用して新しい仕事を考えたいという考えから生まれた仕事。iPhoneのLiDARスキャナを利用して、「こどものまち」にあるオブジェを3Dデータとして撮影。撮影した3Dデータはをメタバース上に配置して、「こどものまち」を擬似体験する、3D博物館を作成。



VRこどものまちサミット

メタバースを活用することにより、川崎市全域の子どもを対象に本事業を展開する事が可能尾になります。2022年には、メタバースの子どもへの取り組みとして、全国こどものまちVRサミットを開催。全国のこどものまちの代表を招いて、メタバース上でプレゼンテーション・会議を実施しました。



● 共創事業者について

事業者名	役割
田園調布学園大学	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト全体の企画・管理・運営 ・関係機関、地域との連絡調整 ・経理責任者、広報責任者、対応窓口 ・ボランティアスタッフの募集・管理 ・イベント会場、運営資金の提供 ・共創子ども会議・ミニたまゆり・世界子ども地域合衆国サミットの運営・管理
一般社団法人 デジタル田園都市国家構 想応援団	<ul style="list-style-type: none"> ・こどものまちメタバースの開発・運営 ・子ども未来発信AIの開発・運営 ・共創子ども会議のサポート
NPO法人 ミニシティ・プ ラス	<ul style="list-style-type: none"> ・共創子ども会議の企画・運営補助 ・「こどものまち」関係団体との連絡調整・サポート ・世界子ども合衆国サミットの企画・運営補助
CHEERS株式会社	<ul style="list-style-type: none"> ・企業誘致ノウハウの提供・サポート ・世界子ども合衆国サミット事前会議の運営補助 ・広報活動支援
一般社団法人 SDGs Innovation HUB	<ul style="list-style-type: none"> ・「こどものまち」SDGs活動支援 ・ビジネスコンテスト（目指せ！名産品共創プロジェクト）の企画・運営 ・共創子ども会議のサポート
一般社団法人 CePiCみんなの地球公園 国際コミュニティー	<ul style="list-style-type: none"> ・「こどものまち」GX※活動コンテストの企画・運営 ・子どもファンドに関する企画・運営 ・共創子ども会議のサポート
川崎市市制100周年記 念事業・全国都市緑化か わさきフェア実行委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・参画団体との調整 ・広報の支援

●実施スキーム

協定書方式（提案型事業連携協定）

田園調布学園大学、一般社団法人デジタル田園都市国家構想応援団、NPO法人ミニシティ・プラス、CHEERS株式会社、一般社団法人 SDGs Innovation HUB、一般社団法人CePiCみんなの地球公園国際コミュニティ、川崎市市制100周年記念事業・全国都市緑化かわさきフェア実行委員会の7団体による協定書を締結予定

●収支予算と負担金額

想定事業費 6,600,000円（税込み）
100周年実行委員会の負担費 3,300,000円（税込み）

〔単位：千円〕

収入		支出	
田園調布大学支出費	2,500	報償費（講師謝礼等）	1,000
参加費収入	800	委託費（メタバース環境整備等）	1,500
提案型事業負担金	3,300	旅費	1,100
		人件費（当日運営スタッフ他）	800
		消耗品費	1,300
		印刷製本費	400
		保険料	100
		賃借費	300
		通信運搬費	100
計	6,600	計	6,600

スケジュール

	2024年									2025年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
スタッフ募集	→											
スタッフ研修		→										
企業・団体募集			→									
企業・団体の活動				→ 企業・団体・子ども・ 学生等の共創作業								
共創子ども会議			→	→	→	→	→	→				
【メタバース×リアル】 謎解きツアー				→					11月16・17日			
ミニたまゆり								→				
サミット					→			→			→ 報告会の実施	
報告書・報告会					→ 事前準備会議			11月17日	→ 報告書の作成		→	